

< 事業所自己評価_様式例 >

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 奉優会	事業所名	優っくり看護小規模多機能介護弦巻
所在地	(〒 154 - 0016) 東京都世田谷区弦巻 5-34-5		

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 10 月 _____ 日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人 ※管理者を含む
----------------	------------------------	------------------	------------------

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
				自己評価	運営推進会議における意見等
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		今回が初回のため、無し			
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	今回が初回のため、無し			
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	今回が初回のため、無し			
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	今回が初回のため、無し			
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		今回が初回のため、無し			

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目		改善計画（案）	運営推進会議における意見等
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)		ミーティングやカンファレンス、記録ソフトでの情報共有はできている。引き続き医療依存度高い利用者に関わっていくためにも職員の技術向上に向け内部研修を充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所スタッフの前向きな取り組みの姿勢を感じる。 ・スキルアップは必要だと思います。スタッフの負担にならないければ良いと思います。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	情報の共有と臨機応変な対応はできているが、ケアプランの把握が行き届いていない面もあるため、見える化を行う。各職種の専門性を活かしたケアを継続して行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法のようなリハビリもできたら取り入れてほしいです。 ・ケアマネ作成のプランをデータにリンクするなどする。 ・各職種で「超えてもいい垣根」があれば相互補完できると良いと思う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	2 か月に一度開催している運営推進会議の内容や上がった意見を全職員も閲覧できるような仕組みを作っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し多機関、多数の方の参加と意見が欲しい。 ・カフェサロンの有効的な利用ができると良い。 ・新しい発見や情報も多く良いと思う。 ・看多機の役割や目的について報告を通じて把握できる。 ・地域と施設の「顔の見える関係」作りに重要な機会なので、施設職員に共有することは非常に有効と考えます。 ・当日作成されたものを皆に公開するのなど簡単なことから始めるのはどうか。または会議音声を保存して誰でも聞けるようにする。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	看取りの支援について、主治医との連携体制は整っているのので、今後看多機としてのオンコール体制などの見直しを行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・老い支度、介護支度的なイベントをやってみてほしい。 ・看護師にはとてもよくしてもらい家族にも寄り添ってくれて助けられました。 ・看多機としての強みを生かした体制を整えていただけると良いと思う。

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>引き続き、家族に対して介護・看護の指導は継続して行っていく。今後は地域住民に向けた勉強会も開催していきたい</p>	<p>・在宅時困ったこともあるが、あまり負担にならないようにと思ってしまうのも事実です。</p>
---------------------------------	--	--

※「改善計画（案）」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		6	5			✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 医療依存度が高く、困難ケースにも取り組んでいる。 自分の中での考えは持っている。 家族に合わせたサービスの提供を実施。 (不明 1)					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		3	8	1		✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> オリエンテーション等なし。 看多機を知っている職員が少ないため、研修が必要。 理念そのものを知らない。 介護職として利用者について全てを理解し、安全や高品質ケアの提供に努めている。 ハード面の強みを活かしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ケアマネジャーを中心に、利用者の求める サービスを提供している。					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通 じて、各職員の中長期的な 育成計画などを作成してい る		1	5	3		✓ 「育成計画の作成」の状況につい て、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画 などを作成している場合は「よく できている」 ✓ 育成計画などを作成していない 場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 面談やミーティングにて話し合いが出来 ている。 未経験の職員も働けている。 育成計画を作成したことがない。計画が あるのか分からない。 (不明 3)					
4	○ 法人内外の研修を受ける機 会を育成計画等に基づいて 確保するなど、職員の専門 技術の向上のための日常業 務以外での機会を確保して いる	1	1	6	2		✓ 「専門技術の向上のための日常 業務以外での機会の確保」につい て、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 外部研修、勉強会への参加。 研修はあまり開催されていない。 日々の業務をこなすだけになっており、 技術がなかなか上がらない。 計画があるのか分からない。自身が参加 対象になるのか分からない。 (不明 2)					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専		11	1			✓ 「情報を共有する機会」の充足度

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	門員の間で、職員が相互に 情報を共有する機会が、確 保されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 毎日 13 時のミーティングで細かい部分 まで情報共有出来ている。 カンファレンスの実施、ケアカルテの参 照。情報の交換。					を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケー スについて話し合うための、定期 的なカンファレンスの開催」など が考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要 望、助言等を、サービスの提 供等に反映させている	1	4	4	2		✓ 「得られた要望・助言等のサービ スへの反映」の視点から、充足度 を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2 ヶ月ごとに開催も、助言や要望へのお 答えが出来ていない。正社員や会議に参 加した職員間でどのような話し合いが行 われたのかが分からない。全体に共有し てもいいと思う。 情報共有出来ていない。 ケアマネから情報共有出来ている。 分からない。 (不明 1)					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くこと ができる就業環境の整備に 努めている		7	3	2		✓ 「職員が、安心して働くことので きる就業環境」の充足度を評価し ます ✓ 例えば、「職員の能力向上の支 援」、「精神的な負担の軽減のため
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員一人一人の声をシフトや業務日誌に 反映していると思うが、声を聞きすぎて 正社員に負担がかかっているようにも感					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		じる。常勤社員のフロア業務負担が大きすぎるのではないかと感じる。管理職の業務時間が気になることがある。 職員（特に介護職）不足のため、負担が大きい。常に不安がある。 新人育成できる社員の不足。 利用者の居住空間と労働環境の明確な区分け。 子育て中の職員への理解はある。 安心安全、気持ちよく働ける職場になればと思う。					の支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		12				✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ケアカルテ、申し送り、slack、利用者情報表（シート）の作成で情報共有を実施。利用者ごとに情報を集約している。更新が遅いと感じている。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者		8	4			✓ 「各種の事故に対する予防・対

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	事故報告、ひやりはつとを slack で共有出来ている。 利用者に合わせケアと対策をしている。 社用携帯に入っている個人情報洩れる可能性がないとは言えない。 夜間の地震や火災など災害時の対応や急変時の対応は、スタッフそれぞれのスキル頼みとなっている。 具体的な対策が知りたい。					策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			9	3		✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		5	4	2		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		7	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		7	3	1		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		ンを更新している。 多職種と情報共有している。 家族からの話を職員間で共有し、計画に反映させている。 計画があるのかよく分からない。 (不明 1)					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	1	4	6			✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		5	6			✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護に

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		充実している。 リスク管理が未完成。 個別看護計画があれば良いと思う。 計画があるのかよく分からない。 (不明 1)					おいては、特に看護職による予後 予測などを踏まえて計画を作成 することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		6	6			✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 介護・看護職員の細かな気づきを共有出来ている。 主治医と連携し、状況変化に対応。 計画へ反映されているのか分からない。 自身では計画を立てていない。 (不明 1)					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		2	7	3		✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		[具体的な状況・取組内容] 泊まりのニーズが高く、もう少し調整が必要。 特定の方の利用状況。(1年以上泊まり) ケアマネの定期訪問は実施しているが、サービスの偏りはある。 訪問に対して意識が低い。スタッフ不足					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		も原因と考えられる。 情報源が、手紙、伝達等、充足していない。					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		9	2			✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 往診付き添い、福祉用具の担当者と情報共有を行っている。(往診付き添いは、体調変化が生じた時のみ) ゴールを必ず設定し、ケアをしている。 自身が対応することはないが、ケアマネから伝達されている。 分からない。 (不明 1)					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		3	7	2		✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に
		[具体的な状況・取組内容] 看護職が入浴介助に入っている。 時に互いの業務を助け合うことで、サービスの質を向上。 役割分担に偏りがある。介護職の役割が不明瞭。人員配置は適切な状況か。 職員が不足しているため、役割分担が難し					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		い。専門性を発揮するというより、その日を どうこなすかになっている。					応じた柔軟な役割分担を行うこ とが重要です
20	○ 利用者等の状況について、 介護職と看護職が互いに情 報を共有し対応策を検討す るなど、両職種間の連携が 行われている		10	2			✓ 「介護職と看護職の情報共有お よび対応策の検討」について、充 足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対し て、疾病予防・病状の予後予 測・心身の機能の維持回復 などの観点から、情報提供 や提案等を行っている		7	4			✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴	2	6	3			✓ 「利用者等の理解」について、充

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 入居施設と勘違いされるケースがある。 丁寧な説明、声掛けを実施。了承を得てからケアを行う、など。 サービスの理解・協力を得るため、面談のたびに丁寧に説明している。 ケアマネ中心に行えている。 (不明 1)					足度を評価します
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	6	2			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 契約時にリスクとともに説明実施。 在宅で介護されていた方が入院後施設を利用し、再び在宅へ戻ることが多い。家族の介護力が高い。 (不明 2)					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	6	3			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 退院支援のための宿泊期間にレクチャーしている。 必ず同意を得てから医療行為を行う。 その都度説明し、ケアを行っている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表	3	8	1			✓ 「サービス提供への適切な反映」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	示ができない場合は家族等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 確認はしているものの、ACPのタイミングの難しさを感じる。 ケアプラン作成時、ケアマネがヒヤリング、現場での様子を反映。 きめ細かく本人・家族の話を聞き入れている。					について、充足度を評価します
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	1	6	4			✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 在宅生活を継続できないケースは、グループホームや特養を紹介するなど、利用者ファーストなケアが出来ている。 (提案があった場合のみ) 情報からリスク問題を話し合っている。 月1回のケアカンファレンスで検討。 方針・意見の発信を誰がすべきか様子を見てしまう。 (不明 1)					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	1	8	2			✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 往診医を交えて出来ている。 必ず看取り同意を取り交わしている。 その都度記録を残す習慣づけはしている。 自施設で看取った方は全て出来ていたと					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		思われる。 (不明 1)					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	2	6	2			✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 退院前カンファ、あんしんすこやかセンターとの情報共有。 看護サマリー、カンファレンス参加時の話、ケアカルテから得る。 さまざまなアプローチを検討し、支援している。 元々在宅介護されていた方（家族に介護力がある方）には出来ている。 (不明 2)					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	5	6	1			✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] 契約時に取り決めをしている。 利用者によっては方針がなかなか定まらない方もいらっしゃるため、押し付けられないACPが必要。 全ての利用者の方針決定はされていない					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		が、状態変化については連携がとれている。					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	1	5	4	2		✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 原則、全ての利用者に往診医（24 時間体制）をつけてもらっている。 連携がとれている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		7	1	1		✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 民生委員、あんしんすこやかセンターの方が毎月参加している。 2 ヶ月に一度定期的に開催できており、内容は職員へ共有。 全く現状把握していない。分からない。 (不明 3)					
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見るような方法での情報発信が、迅速に行われている		5	4	2		✓ 「誰でも見るができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ケアマネが記録している。 正社員の対応者のみしか共有されていない。 知らない。 (不明 1)					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		3	6	1		✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] チラシの配布、SNS。見学対応。 現状を把握していない。 自分で行ったことはない。今後行っていく所存。 (不明 2)					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		2	1	7		✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください
		[具体的な状況・取組内容] 訪看ステーション登録していない。実施していない。一人もいない。 利用者の家族の情報共有をしている。 (不明 2)					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	4	3	4		✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 夜間の吸引は要相談。 研修制度が出来ていない。研修未受講。 体制作りが必要。 今後、介護職員も吸引の研修を受ける予定。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		1	3	7		✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看多機で看取りは出来るが、自宅での看取りは難しいと思う。(オンコール体制、24時間加算をとっていない、正社員の看護師が少ないため) 未だ受け入れに至らず。 (不明 1)					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	6	4	1		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	1	1	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39		1	8	2			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しな

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	○ サービスの提供エリアにつ いて、特定の集合住宅等に 限定せず、地域に対して積 極的にサービスを提供して いる	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 病院、あんしんすこやかセンターに営業 し、集合住宅に限定せず提供している。 世田谷区内の広範囲、エリアは絞らずに サービス提供。 分からない。 (不明 1)					い、地域への積極的な展開」につ いて、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、 特定の集合住宅等に限定するこ となく、地域全体の在宅療養を支 える核として機能していくこと が期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象と している場合は「全くできていな い」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地 域の関係者に対し、必要に 応じて課題提起や改善策の 提案等が行われている	1		4	5		✓ 「課題提起や改善策の提案等の 取組」について、その充足度を評 価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じ て得た情報や知見、多様な関係者 とのネットワーク等を活用し、必 要となる保険外サービスやイン フォーマルサービスの開発・活用 等、利用者等のみでなく地域にお ける課題や改善策を関係者に対 して提案していくなどの役割も 期待されます ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対		4	3	3		✓ 「家族等や近隣住民に対する、介

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	し、その介護力の引き出し や向上のための具体的な取 組等が行われている	[具体的な状況・取組内容] 介護技術、看護(医療)の家族への指導は 行っている。 家族に対してはアドバイスしているが、近 隣住民へは全く出来ていない。 分からない。 (不明 2)					護力の引き出しや向上のための 取組」について、その充足度を評 価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣 住民の関わりを促しながら、関係 者全員の介護力を最大限に高め ることにより、在宅での療養生活 を支えていくための環境を整え ていくなどの役割も期待されま す ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」
番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価							
① 計画目標の達成							
42	○ サービスの導入により、利 用者ごとの計画目標が達成 されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成され ている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成さ れている 4. 利用者の1/3には満たない					1 1 2 4 3 4 4 不明 3

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 現状を把握出来ていない。 ケアプランを主に、在宅復帰までの計画 を入所時に立案している。 状態が変化するため、計画通りには進ま ない。 サービス導入し、状況が低下した方はい ないと思う。					
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感							
43	○ サービスの導入により、利 用者およびその家族等にお いて、医療が必要な状況下 においての在宅での療養生 活の継続に対し、安心感が 得られている ※在宅での看取りを除く、 全ての利用者およびその家 族等に対し、サービスの提 供により実現された「医療 が必要な状況下において の、在宅での療養生活の継 続に対する安心感」につい て、評価します	1. ほぼ全ての利用者について、達成され ている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成さ れている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 家族の思いを優先し、介護・医療的な援助 が出来ている。 家族の安心した生活を支えられている。 医療度は高くないものの、適切に行えてい る。					1 1 2 7 3 4 不明 4

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
44	<p>○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p> <p>✓ ※在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>看取りにつながるケースが多い。看取りをされた方々から「家に帰れて良かった」との言葉があったため、満足されている印象。</p> <p>看取りは当施設で行ってきているが、緊急体制が整っていないため、スタッフの不安が大きく見られる。</p> <p>24 時間体制で看護師が動けないジレンマはある。</p> <p>エアマット、吸引器導入など細部にわたって検討。</p>				1 4 2 3 3 2 4 2 不明 1	